

近喜代一日記(昭和四十年一月一日から十二月三十一日まで) その一

平野孝

解説

「近喜代一日記・抜粹編(昭和十一年から昭和四十一年まで)」(『龍谷法學』第四十卷四号、所収、以下、「抜粹編」の解説で述べたように、近自身の手になる「近喜代一日記」は二種類ある。一つは昭和七年から昭和四十八年までの日記、もう一つは、昭和七年から昭和四十一年までの日記を近自身が抜粹したものである。本稿は、本編である前者のうち、新潟水俣病発生の公式発表の年である昭和四十年の一月一日から十二月三十一日までの日記を翻刻したものである。

前稿の「抜粹編」は、戦前から新潟水俣病発生の公式発表の翌年までの近喜代一と周辺の人々の全体像を知るのに便宜であった。その「抜粹編」の解説では、「近喜代一日記」は、以下の四点の考察に資する史料的价值があると指摘しておいた。

①戦前から高度成長が終るころまでの、日本の半農半漁の常民の日々の営みがどのようなものであったか。(民俗

学的な資料

② その、半農半漁の常民の日々の営みのうちに、水銀汚染がどのように入り込み、人体被害となって現れてくるか。
 (疫学的、医学的資料)

③ 水銀による汚染が人々の生活をどのように激変させていったか、水銀による汚染と人体被害を人々がどのように
 覚知していくか、そして、それを知った人々が、被害をもたらしたものにどのように挑んでいったか。(政治史
 にかかわる史料)

④ 日々を営々と生きていた一人の常民が、自分と自分に関わる人々の健康、生命、生活を犯すものが立ち現れたと
 き、どのようにそれに対処したか。一国の政治・経済を動かすものと対峙し、一国の政治のあり方を転換せしめ
 た常民の営為がどのようなものであったか。(歴史的史料)

本編の翻刻を始めるに当たり、本史料は①との関連で、川島武宜が『日本社会の家族的構成』において指摘し、引
 き続いての調査・分析の必要を説いている「民衆の家族制度」を伝える好個の資料となっていることを付言しておく。
 「抜粋編」に引き続いて、本編の記述を精査・翻刻する中で気づいた「近喜代一日記」のもうひとつの意義である。
 戦後改革とそこでの民法の抜本的改正によって、川島武宜が分類した近代日本の家族制度のうち、武家の儒教的家族
 制度は解体されたが、「民衆の家族制度」は戦後もなお強固に残存しており、新潟水俣病はその半農半漁の村落共同
 体に暮らす人々の生活の中に入り込み、新潟水俣病反対運動も、そうした半農半漁の村落における「家族制度」を基
 盤としながら形作られていったように思われる。

本稿収録の昭和四十年の日記には、次にみるように、突然、近の家族の中に水俣病が入り込み、肉親を殺し、家庭
 を破壊していく様子が記されていく。

「二月二十二日（中略）昨夜猫が毒喰つたネズミ喰つたのか、夢中で家中かけ回り戸に打つかり、ひっくり返り大さわぎて、朝迫家中眠られず。」

二月二十三日（中略）夕方、ネコ死亡に付、庵主様にお経上げてもらつて埋葬した。君子も主。」

「三月十一日（中略）広川母子と喜作さん来て、テレビスモウ見て、母娘帰る。我、喜作さんと酒五合位のむ。喜作さん帰つて（八時頃）後、ミイ狂い始め、灰をかぶつたり喰つたり、水かぶつたり、風呂は入つたり。我等も、子供もほとんど眠らず監視し、六時過ぎ（妻が）起きてから、又、くるしみ出し、田村医者に連絡し、いろゝ手当てし乍ら一時間も待ち、すぐ注射したり、手当中、八時五分頃死亡した。」

三月十二日 今朝六時過ぎにミイがくるしみ出してすぐ医者に連絡。我と妻、子供等で手当てしているうちに医者来て、注射したり手当てしたがききめなく、八時五分に我に抱かれて息を引取つた。」

「四月十二日 父、三泊四日の東京見物より十一時頃帰る。父の状態を見るに、何か舌がもつれている様に思ったが、父は何ともないと言ふので、安心したものの少し不安。」

「六月二日（中略）午前四時に妻起きて、炊事前にお爺さんの具合見に行き（毎朝行く）返事もせず、ゆさぶつても應答無く、驚いて我を起す。喜代次さんも子供も起きて大さわぎし、我、バイクで医者むかいに行き、四時十分に来て、診察の結果、脳溢血で死亡と診断し、四時二十五分死亡となる。其後、村親るい集まつてもらい、寺―村―他村と告人や買物定め、後、皆集まつて段、其他、葬式準備開始。夜、念佛50人位来てくれた。」

家族の異常と死が水俣病によるものであることがわかるのは、六月十五日のことである。それは、次のように記されている。

「今日、午前十一時30分頃、厚生省くわんきょう衛生局食品衛生課長外30人も来て、テレビカメラを二台据付けて、

約二十分間、病状、情況、いろいろ聞いて行く。夕食後、新聞記者とかめらまん来て、酒一升とおみやげ持つて、情況聞いて録音して行く。喜作さん、テレビ見て、私が調査団と話している。驚いて来てくれ、酒2合位いのんで帰る。今回の病氣は、水銀中毒と断定。父も同病なり。」

翌六月十六日の日記には、近自身の水俣病の診察、マスコミの取材に戸惑う様子が記されている。

「昨日、新大神経外科医さん来て、我と彦造さんを診察してくれて、髪の毛若干つつ持ち帰つて分せきすると言つた。水俣病がめづらしいのとおそろしいので、各報道者が入りかわり立かり来て、テレビかめら、テープレコーダー等でいろいろ聞かれ、私も仕事をするひまもなく、ノイローゼとなる。」

昭和四十年の日記帳は、後述する理由により六月十八日で中断され、十二月六日から再開されている。その間を埋める別冊の日記帳の六月三十日の頁は、次のように記されている。

「今朝も、又、三人共食事待つたで、血液取る。其後、私だけ注射して尿四回、15分、30分、1時間、2時間を取り、十一時30分に終つて朝食し、30分後、又、お昼。皆喰つた。今日は見舞客〇。症状の事、家の事など語り合つて、夕食後、テレビ見に行く。ゴロンボ波止場の終わりに水また病の発表が出て、近喜代一方より出た川魚に水銀が、35 P.M.有つて、多量だと発表。父、喜代太さんは月始めに死亡、長男喜代一さんも重病ですと発表したので、驚ろき、面白くなかつた。すぐ室に帰つて寝たが12時頃迄寝れなかつた。」

別冊の日記帳は、水俣病検査・治療のために入院した近の闘病日記である。

近喜代一は被災者の会の初代会長になり、やがて新潟水俣病事件第一次訴訟の原告団長になっていく。本稿には、近喜代一が被災者の会の会長となり、立ち働く姿も綴られている。

詳細は、本文を参照されたい。

「抜粹編」と本編の記載をつき合わせていく中で判明した近自身の事実誤認について言及しておく。日記の構成にかかわる誤記である。

「龍谷法学」の第四十巻第四号で紹介したように、近は「抜粹編」の昭和四十年六月十九日の記載に「六月十九日新潟日報社へ日記帳三十五年から四十一年迄のを貸す」と記していた。しかし、表紙に「日記帳（米供代金控）」近喜代一 自昭和四十年六月十九日 至昭和四十年十二月五日 市内一日市」と記載のある本編の日記帳の冒頭には「昭和四十年六月十九日 新潟日報社へ日記帳貸したのでこれに書いた。（川魚の状況、父の病状、農薬等調査の為）」と記されている。一方、表紙に「日記帳 前 自昭和四十年一月十七日 至同六月十八日 後 自昭和四十年十二月六日 至昭和四十一年二月二十日 六代目 近喜代一 〈金貸借控〉」の記載のある日記帳の記載は、昭和四十年六月十八日で終わり、直後の記載は同年十二月六日から綴られている。そして、欠落している半年分の日記は、前掲の、表紙に「日記帳（米供代金控）」近喜代一 自昭和四十年六月十九日 至昭和四十年十二月五日 市内一日市」と記載のある日記帳に別途綴られているのである。これにより、新潟日報社へ貸し出された日記帳は、「四十一年迄」のものでなく、「四十年迄」、より正確に言えば、「四十年六月十八日迄」記されていたものであったことがわかる。

本稿では、別の日記帳に綴られた昭和四十年六月十九日から同年十二月五日までの記載を、表紙に「日記帳 前 自昭和四十年一月十七日 至同六月十八日 後 自昭和四十年十二月六日 至昭和四十一年二月二十日 六代目 近喜代一 〈金貸借控〉」の記載のある日記帳の欠落箇所に入し、読者が日記の日付をそのまま追える形で翻刻を行うことにする。

翻刻を行うにあたって、抜粹編とほぼ同様、以下の表記を行うこととし、原文突合を重ねたが、なお十全を期し難いと思われる。推敲の不足については、寛恕を請う。

一、何年の日記かわかりやすいように、当該年の初めの箇所に年号を記入、明示した。

一、日記の原文は、何日分かがまとめて綴られている箇所もあるが、本稿では、読みやすいように、原則として、一日分の記載ごとに行を変えるときに、日付を全て太字にし、適宜句読点をつけた。

一、日付の上に「×」「①」「スズまき」等の符号、数字、文字等が書かれている場合があるが、読みやすいように、それらを日付の下に表記した。

一、日記の原文は、「入る」が「は入る」、「本家に」が「本家い」、「聞こえず」が「聞こいず」、「ほどく」が「ほろく」と表記されるなど、誤記や方言も随所に見られるが、方言、旧字、誤字、脱字、漢数字とアラビア数字の併用など、原文の表記を、原則としてそのまま翻刻した。

一、原文に付けられているルビはそのままとし、平野がつけたルビは丸括弧をつけてある。

一、本文中、伏字とあるのは、プライバシーに関わって削除した箇所である。

一、本文中の傍線は、訴訟の渦中で坂東克彦弁護士が本史料を読み、引いた傍線をそのまま表記したものである。本稿は、佐保勲さんの遺志を継ぐ仕事のひとつである。

日記

近 喜代一

昭和四十年

昭和四十年一月元旦 58本

一月二日 大風波 出られず

一月三日 風波止む、くもり 36

一月四日 大風波 二七張

我、七時頃出て網上げ始めたが風波出て逃げた。其、又、行つたが元網片方だけたぐつて、又、逃げた。其後、大しけで休む。ミつ夫婦にサシミ取つたり魚のみそ汁作つたりして馳走した。夕食後、五時半に帰つて行く。妻、炊事。我、米やの為に網上げさせられて張られず。

一月五日 風波有り 74

我、今朝六時に起きて一服後、おもちを喰つて川い出る。網皆上げて十時頃帰り、山田と清三さん方へ行つてはかいするのかどうか？忠吾から聞いてお昼後、本所場い張る。南風でつかれた。妻、台所仕事。喜代平、小池の母死亡して給料八万円と香典二、〇〇〇円持つて行き、お昼、我、家で喰つて帰る。広川母娘、年始に来て夕食。酒食して宿るつもり。

一月六日 南の風くもり 16本

我、六時半に出て袋上げ。片側竹ぬいて流す。午後袖網一枚追加して島端迫張る。喜代次さん年始に来て宿る。広川母娘、夕食後帰つて行く。夜、山幸方でやつめ漁師会議有り。

一月七日 くもり時々晴 36本

我、朝食後網上げて、潮引きの為、源七前込下がつて回る。午後、小魚捕り用袖網取り付けて三時過ぎから張つたので、おそく上がる。喜代次さんとおちいさん、津島屋に年始に行つた。山幸夜来て、本所（傳造）に連絡して願つたらもう1つ来てもよいと言われたことを知らせに來た。おちいさん等、津島屋宿り。

一月八日 雨 七本 五〇〇匁

我、八時頃出て袋上げ。彦造さん方で一服して來た。小魚用袖が悪かつたのか？七本しかいなかった。下の状況三、22本 四、50本、五、13本 六、17本 七、7本。忠、清。妻、台所仕事の後、本家い（^{ママ}）昨年の俵納おさめに行く。

一月九日 大風波 20本 五〇〇匁

我、風波の為、お昼頃、清三さんと出て袋上げる。濁川、年始みやげにやつめ10本、大4、小6喜代榮に届けさせ、我、四時頃込網がすほろいたり直したりして濁川い年始に行く。沼垂と我と庄造さん、嘉助兄、お客で仕出し取ッて馳走になる。夕食後、庄造方い風呂は入りに行つてビール馳走になつて、12時頃、治助方い帰り寝る

一月十日 風波 19 小魚二貫匁

我、朝食前に網上げに来て、袋上げ、羽形流して、又、九時頃濁川い行き、馳走になつて、一眠りして、午後一時15分に帰る。其後、網がすほろいて直し、日暮に帰つてスモウ見た。妻、今日は一日市婦人会の新年会に行く。大淵やつめ代受取。

一月十一日 くもり風なし 61本

我、六時半に出て、網上げて、良く洗う。又、風波が出ると言ふので早昼喰つて二番に張る。四時半頃上がつてレビスモウ見る。妻、炊事其他。喜代司の妻とサナイ年始竝に藤平の土地見来。

一月十二日 大風波 12本 ミコ一貫餘り

我、九時前に出て袋上げる。其後、すぐ袖一枚追加して張る。夕方、全部がすほろいて直す。四時に上がつてスモウ見る。今夕、喜三男方で新年会があるから六時迄に来てくれと言つて電話有つたが、網心配なので行かなかつた。妻、針仕事（ミシン）竝に炊事。彦造方で一服した。昨日、ヨシエに頼んで万年筆800円買った。

一月十三日 くもり小雪 66 二貫五〇〇

我、八時頃網上げに行き、風波出る様なので袋だけ上げて来た。やつめ6本、ミゴイ一貫五〇〇匁以上取り、助エ門方い白菜もらつた札に五、六百匁やつた。昼は袖網の修りして三時半頃出て、網のがすほろいて、直して帰り、テ

レビスモウ見る。妻、炊事。今日、又、ミイが狂つて来て心配なり。

◎昨夕から今朝にかけて雪、一尺以上ふる。

一月十四日 南西の風雨又はアラレ 57 一貫匁

我、七時に出て網上げる。其後、ぼつゝ出て皆上げ始めた。我、朝食後、すぐ三等場いき張る。以前と違つた場割り方しているのを知らずに、変に張つた。清三、彦造さん昼後來たので、北の風にあをられてなお変てこに張る。今日はミゴイ七百匁位いとやつめ七本。妻、小餅つき竝に炊事。馳走はミゴの煮魚、さしみ、豆腐油上汁、菜漬け、納豆、その他。政子、又、三学期も学級委員となる。

一月十五日 くもり時々晴 54 五〇〇匁

我、七時に出て、袋上げて帰る。張り方がおもしろくなかつたので、網竹ぬいて流し元網だけ上げる。食後、全部上げて張り直す。今度は思ふ通りに張つた。修理し乍ら張つたので、三時頃帰る。

一月十六日 くもり後大風波 54 八〇〇匁ほら

我、今朝雪降りて海の方もまつ暗なので、食後出て行く。七時半過ぎても誰れも集まらぬので、清三さんと二人袋上げて帰つたが、其後、上川の者全員上げたからと言ふので、彦造さんと三人で上げ始めたら、大風波で逃げ帰る。其後、風波止まず内川、忠山だけ張つた。米屋渡し49、参、四三〇円。勘五郎三〇本、ヨキ（大淵）、和傳10本とほらとミゴイサシミ魚やつた。父、今晚サシミと肉焼で一ぱいやり、よろこんでいた。

上の畠かみ一反一七一〇歩、代金一〇七万参貳六八円也。栗原レミコンに賣渡す。（ノートの裏表紙見開きに記入してある―平野）

「日記帳」

前 自昭和40年1月17日

後 自昭和40年12月6日

至 同 6月18日

至昭和41年2月21日

六代目 近喜代一

〈金貸借控〉

(二頁目に記載の金銭貸借控は省略—平野)

鯉袋仕立て寸法竝に日数、記録。

上—下三角110目、横100目、7目づゝ、残して切る。側立140目、横112目、ドグチ足形九尺、羽形八尺五寸。ローブグタゝにして、後日直す。(以上、二頁目に記載—平野)

昭和四十年

昭和四十年一月十七日 1 五百匁

我、今朝食後、八時頃出て、網上げてすぐ四等に張る。清三さん上げない為、じやまになり「かいて」上げて張る。要松さん、早く行つて網洗い直していた。我、終つてから全部足形調べて清三さんと帰る。父、庵主様へだん家全部招待して、今後、五ヶ年に又くわん金お願いした。(我、前回の二割増と決定した。我家は壹ヶ年二、一六〇円也。夕方、津島や若夫婦、子供二人共年始に来て、酒食後九時頃帰つて行く。彦十郎さん酒にゆうて来ていろゝべんじて行く。我、夕方、田村医者へ診察に行く。(後頭部痛くて心配の為)

一月十八日 くもり 25

我、彦さんに頼まれて、七時迫に帰れる様六時に出て袋上げて渡す。要助さんも一しよに帰る。其後、彦造さん方で遊び、川い出て網のがすほろいといると、要松さん来て、上げて交代せよとの事で急ぎ山田方い集まり、相談の結果、明日交代する事に決定し、すぐ網直しに行く。山幸、内川二人分張り、忠と宇、勝手に休む。妻、魚上げ仕事に行く。朝四時30に帰る。20時間一、六〇〇円、朝四時半に帰る。

一月十九日 くもり 35 一人餘

我、清三さんむかいに来て、六時すぎに出て、要助と三人共網上げる。(三) 一本、(四) 5本、(五) 25本。朝食後、我と清三さん、要助さん、休んだ為、又、元の所い張つて二時に昼食。妻、寝休み。濁川の義母、年始にこられて妻も起きる。やつめ一本焼とミゴイのサシミ沢山つけ、よろこんだ。

一月二十日 くもり風なし 16 三百匁

我、七時頃袋上げて、午後袖網のがすほろいて帰り、テレビスモウ見る。今日もやつめとサシミ馳走した。今晚も宿る。子供達もよろこんでいろゝ話していた。

一月二十一日 くもり風と雪少し 34

我、朝食後、清三さん方いき、山幸、宇三郎、彦造さんもよび、協議の上、張かいしない事に決定し、お昼迄に袋上げて来た。山、清、我、三人で同時に上げて帰る。濁川の義母、帰りにやつめ10本(五百円)買つて帰る。よろこんで帰つて行く。我、午後網がすほろいて直す。

一月二十二日 くもり小雨とあられ 12 800匁

我、六時半に出て網上げる。九時半に帰り、朝食後休む。早昼喰つて網張りに行き、四時に帰り、テレビ見る。妻、

午前11時に出て魚仕事に行く。午後六時現在、未だ帰らず。今朝、勘五郎に15本渡す。現金。夕食後、小魚焼く。

一月二十三日 大風波 出られず

我、朝食後、彦造さん方い遊びに行き、舟大工と会つて、彦さん方で酒食馳走になつてきた。大風波の為、誰れも出られず。夕方、我、場所迫行つて、竹ぬけた所をふつて直して来た。大波（二米以上）の為、袋上げずに帰つた。やつめ全部賣れて○。妻、炊事の外休む。ミイ、医者い行き日暮れても帰らず。

一月二十四日 大風波夕方又強し 9 一貫匁

我、食後、二五エ門方で宇三郎、山幸共連絡して、交代しない事に決定し、風波の為上げに出て、一度もどり、二時過ぎ又出て、袋上げ（9本、魚一貫匁）西の袖がす流して直す。妻、午前休み。午後、ヨシエと町い服地買に行く。帰りおそし。ミツ夫婦、四人来て、夕方帰つた。喜代司来て、藤平の土地107坪、単価一万一千円に願つて来たと言つて、ミツ等の自動車で帰つた。

一月二十五日 風波夕方次第に止む 8 800匁

我、お昼頃袋上げて袖網三枚がすほろいて直す。二回突風有つて「うでぬれた」。宇三郎さんも袋上げて、山幸出なかつた。夕方、我、小魚、助門と政二郎方い各七〇〇匁位づ、やつた。毎日とれるので、喰い切れない為（米こなし代、まけてもらつたり大恨、青白菜もらつたお礼）。夕方、我、喜代栄、君子等と舟板運搬して家の前に持つてきた。ハシぬか切り返した。

一月二十六日 風波止む 20

我、七時より出て網上げる。四日も張つて置いたので、がすほろくに難儀した。お昼後、本所場い張りに行く時、忠吾と一しよになり、傳造の右か左かと聞かれたので、東と答えたら忠吾はすぐ下場い行つてしまった。ぶつくた言

つていたとの事。我、あまり東い行き過ぎて？又、袋三ヶ所節も切れていて、今朝二本しかいなかった。

一月二十七日 くもり雨 2

我、八時前に出て袋上げたが、二本しかいなかったの、十一時に川い出て元網上げて調べた所、袋三ヶ所、三節切れていたので修理し、良い所い移動して元網だけ張り終らぬ内に、風波出て逃げる。其後、コタツで一眠りした。夕方、益々風波強く成り其のまゝ。

一月二十八日 くもり時々雨 2

我、八時頃出て要松さんと会い、張りかいしないとの事で、彦造さん方で一服し、其後、袋上げて網張る。帰りに袖網一枚持つて来て修理し、夕方、追加張りして彦造さんと附けて来た。コーレンボの心配有るも、大漁したい為妻、炊事。先日、妻の生命保険一〇万円取り、13年付き720円かけいい約した。夕方、寒さきびしいので、又、父、酒切らしていたので一升買った。

一月二十九日 風波有り 20

我、網上げて、袋修理し張り直す。傳造さんとかつつけた。しけの為、張りかいなし。我、酒一升と豆腐四ヶおごる。彦造方。

一月三十日 風波有り 15

我、袋上げて片方だけ流し、夕方、又、張る。

一月三十一日 くもり風少し 12

我、網上げて、お昼頃、八番の米やの東方い張る。まくり十本落とす。広川母娘来て、酒一升出して宿る。喜代司も来て、土地の話、藤平方でして、酒一升おごつて、藤一さんと飲み乍ら話して来た。家で、又、酒飲む。家でも酒

一升おこつて行つた由。

貳月一日 風波寒する 0

我、から上がりで午後上げて、西方い張り直す。下風有つてつかれた。広川、お昼後帰る。妻、炊事其他。今朝、岩次郎姉来て、ハツ目六本買つて行く。下ろしでやる。

二月二日 大風波 3

我、朝六時に起きて袋上げ、竹ぬいて流してきた。米やも二日だめして一本、内川清三さん4本で不漁。其後、ミイが又シンケ起きて「さかうらみ」話しているので、聞けば心気やけるので、彦造さん方い遊びに行く。先日、彦造さんに話をきいた。10万円の債券下ろす事を彦造さんの妻に又頼まれたので、帰つてすぐ農協い行つて普通貯金帳より五万円おろして来て、先日、生命保険四万円とやつめ代一万円足して10万円こしらいた。父も馬鹿娘の為に苦のうのあまり遊びに行く。妻も出て行つて家に誰れもいず、馬鹿娘だけが相手待ちに居ていろゝと話していた。其後、彦一さん妻むかいに来て行くと、父と要松さん、彦造さん居て、酒のむ支度していて、我、サシミ取り、豆腐やつめ汁で一升のみ、ソバ馳走になり、一眠りして夕方帰る。喜作さん来て酒三合以上ので帰る。

二月三日 大風波 X

全員風波の為、出られず。休養。妻、炊事竝に針仕事。

二月四日 大風波 午後三時頃より風弱まる X

我、寝ぐるみ休みで、10時頃彦造さん方い遊びに行き、一服して舟の雪のけに行く。お昼後、網張りに出たが又強風吹いて来たので逃げた。家で一服して、三時に又出て、全部張つた。清、忠、米等も出て直す。下場不明。妻、炊事針仕事。夜、生花講習会に行く。近頃カゼ流行しあり、注意要。

二月五日 大風波夕方弱まる

我、夕方大波有つたが、出て網張る。其後、皆出て直していた。我、日暮れ込に全部終る。

二月六日 大風波 6

今日は、皆と傳造、計10人で砂取り舟、島からおろす仕事を終り、山幸方で酒二升追加、傳造一升、計三升のんで、我、へべれけに酔つて、袋上げた事も其他の事も全部おほいがないので驚いた。

二月七日 風波有り 7

我、網上げに出たが、彦造さん方で要松さんと話の結果、町い行つて入沢網店に行き、鮭用袋網材料六千三百円現金買。彦造さんは、袋半分其他、要松さん、細ロープ等買つてカッドン馳走に成つて帰り、其後、袋上げた。

二月八日 晴 3

我、六時半に出て網上げて、きれいに洗つて干す。食後、丈足し、網八節を15目づゝ切る。お昼後、八等場い張る。袖三枚附けて夕方上がる。妻、昨日、女衆八人でビーチセンター行、一日中し、夕方帰る。四喜男、昨日来て家新しくするの到手つたつてほしいと言つて来た。

二月九日 晴後くもり夕方雨 11

我、八時に袋上げて西袖羽形流す。其後、清三さん方い八人集まつて組合長を待つていたが、話が違つて、津島屋、新二郎方い集合する事となり、要松さん、清三さん、我、三人出て、本所二人、津島屋九人で大きき用水の補しよう料に對スル調査。上中下と三段に分け20人を調査。書類完。お昼酒一升、パン50ケ。帰つて、夕方、網直して来た。妻、炊事其他。

二月十日 小風波有り 1

我、八時頃出て袋上げ。がすほろいてお昼に帰る。其後、鮭の袋作り始め。父、夕方、喜代次さん方い年始に行く。兄弟四人揃つたとのこと。宿り。

二月十一日 くもり雪少し 16

我、八時過ぎに出て本所場網上げる。何日も立越の為、お昼迄かゝつた。お昼後、一等場張る。穴を砂舟で埋め、夕方、サシ網一枚張つて来た。父、年始より帰る。妻、炊事其他。夜、生花行く。清三さん、鱒一本(2K)取る。君子、政子、ぎょう虫駆除薬飲ます。

二月十二日 くもり 9

我、朝食前に袋上げる。8本食後、新袋(鮭用)作り、夕方、又、川い出て網直したり、サシ網張る。妻、台所仕事、其他。

二月十三日 くもり時々晴

我、六時半に出て網上げる。(袋)食後、全部上げて元網だけ張つて、お昼後、全部張り、足形砂でうめて袖網と竹、始末した。今朝、サシ網にうと言う鳥がかかつていて夕食に鳥汁、皆で喰つた。妻、前同。夕食後、妻に今月分給料一万円渡す。残り五、〇〇〇円。

二月十四日 くもり雨少し 1

我、六時半に出て袋見たが、一本しか居ないので上げずに帰り、朝食後、四喜男の家こわしに行く。バス待ちしていたら、金松さん、自家用車で来たので、又、家迄戻り一輪車つんで行く。こわし方早く終わり、基を掘りも殆ど終る。清太さん方い風呂は入りに行く。我と喜代次、喜三男。父と我、喜三男の自動車で山ノ下い行きビール二、三本飲んでステレオ等かけ、唄言つて行つて12時過ぎに寝た。ミツオ不参。

二月十五日 大風波小雪ちらゝ 6

父と我、喜三男方で朝食馳走になり、東港線道路工事の為、バスビル迄歩いてやつと自動車帰る。我、すぐ袋上げ。7本。小畑姉さんに賣る。560円。お昼後、鮭用袋作り。昨日、四喜男方で網包盗まれたのか？濁川金松さんが間違つたのか、無かつたので、完成できず。

二月十六日 くもり小雪 2

我、朝食前に川い出て袋上げる。二本と小魚一貫匁餘り。父と妻、皆焼いた。食後、我、四喜男方い基ソコンクリに行く。我、喜代次、喜三男、濁川三人、大工と四喜男、大瀧清太、計十人でべいすと立上がり九分通り完成し、九時頃帰る。喜代司を送り、濁川兄を送り、又、我、家迄送られてきて12時過ぎ迄、お茶のみ話して帰る。

二月十七日 くもり午後風波高し 3

我、八時に網上げてお昼後、三等い張りに行つたが急に風波出て、元網ドグチ立て逃げる。帰りにミゴ二疋、三百匁つかまいて来た。妻、魚仕事に行く。

二月十八日 くもり

午前、我、袋作り。お昼後、三等場上げて思ふ様に張り直した。足形全部調べてサシ網二把張つて五時半に帰る。妻、魚仕事に行く。テツ夜だと傳言来る。

二月十九日 くもり

我、七時に出て袋上げる。全般に不漁。食後、袋作り。彦造さん遊びに来た。妻、今朝二時頃帰つて来て寝ぐるみ休み。午後、我、袋作り。彦造さん方のもうそう竹一本切つて割り、三分の一位もらつて来た。夕方、網袖一枚張り直してサシ網一枚追加、計三枚張つてきた。喜代平長男生まる。

⑦二月二十日 くもり時に晴夕方東南の風

我、朝、袋上げ、食後、元網から上げて張り上げて張る。お昼後、又、袖網張り、サシ網三把張る。妻、午後魚仕事に行き、十時頃帰る。喜代司方注文のサバ一箱（中）550円買つて来た。

二月二十一日 南西—西の風波強し

我、風波の為、川い出ず。庵主様の家材道具片付け、竝に、棚、押入、床など全部こわし五時頃上がる。夕食出ず。妻とミイ、喜代平方長男の出生見舞に行く。ヨシエ休み。家の子供は以前より手つだい仕事をしなくなつた。妻にも言つてどんくさせねば将来骨惜しみ者が出る。

二月二十二日 大風波 ① 猫

風波の為川い出られず、お昼頃袋上げて、食後、鮭用袋網の竹輪四ツ作る。昨夜猫が毒喰つたネズミ喰つたのか、夢中で家中かけ回り戸に打つかり、ひつくり返り大さわぎて、朝迄家中眠られず。夕方、我、網片方張り直す。彦造さん方、前金のやつめ三本、我、届けた。

二月二十三日 大風波

我、風波の為川い出られず。鮭用の袋作り（竹の輪作り）。妻、洗たく炊事、その他。今日、夕方、ネコ死亡に付、庵主様にお経上げてもらつて埋葬した。君子も主。

二月二十四日 大風波寒波

今日も大風波で川い出られず。もつぱら袋作り。輪六ツあげ、二ツかり、取り付け完了した。彦造さん遊びに来た。寒さの為流感がはやつて、全国的に小中学校臨時休校有り。

二月二十五日 ④ 小魚一貫餘

風波止み、張り替いすると思つて八時過ぎ迄待ち、お昼後、袋上げて片方張り直す。

二月二十六日 くもり雪 ⑤

我、お昼後網上げて、片方張り直す。宇三郎さん来て、交代せよとおこつていた。妻、炊事、針仕事。

二月二十七日 小風波 ⑦

我、袋網作つていて、夕方、袋上げて直さずに帰る。妻、炊事、針仕事。

二月二十八日 大風波

我、一日中袋作り。ド口足形九尺、羽形八尺五寸にした。喜代司、夕方来て土地の事に付いていろいろ話して、藤平方い出かけて行く。土地地目変更申告書の事。

三月一日 大風波 ⑥

我、午前、袋完成し、彦造さん遊びに来て、父と酒飲んで帰る。我、十時に出て袋上げ、元網片方上げて張り直す。袖網上げて干し、別の網、夕方行つて張る。山幸も一しよに出る。町の人に単80円で賣る。ミゴ、ハイ一貫匁あまり。毎日生きた魚のサシミで夕食し、近頃、父も我も妻も太る。

三月二日 くもり ②

我、朝食後、山幸が来て交代すると言うので出て上げる。帰つて、お昼後、網修理。二時頃出て、五等場張る。めんみつに張つて六時に上がる。妻、勘平方住家新ちくの為、小縄二把持つて行き、帰つて、一左エ門方い固定資産税納めて来た。其他炊事。喜代栄、スミ、餅ひろつた。政子も福手もち11もひろつた。夕食に煮て食した。

三月三日 晴後風波有り ⑤

我、朝、網上げて、其後、袖網修理し、夕方、川い出て網直した。妻、針仕事、炊事。大洲の舟大工、酒一升（寒

梅) 持つてきて、父、八合も追加して、彦造さんをむかいて、四人で一升八合のむ。やつめ4本焼き、サシミ一皿づゝ。天ぷら其他。

三月四日 小風波雪 ⑭

我、朝食後、新袋に袖一枚付けて、十時より川い出て袋上げ、袖一枚張りかいてほとんど全部はりかいて、午後二時に帰り昼食したので、夕食はしくなし。

三月五日 風雪 ⑫本

我、やつめ網上げる。県市民税の申告に支所へ行く。帰り、要松さんのバイクにのせてもらつて帰る。

三月六日 風雪 ⑨

我、朝、袋上げて、食後、八時に国道い出て、ヨキと濁川金松の自動車で四喜男方い上棟式に行く。前ひさしだけ広小舞い打たづに上がり、イナリ様方で食事して、10時頃、喜代平、自動車で送る。ヨキも同。ヨキ方よりコーコ二桶持つて行く。

三月七日 くもり時々小雪 ⑭

我、袋上げて庵主様の家こわしに行く。喜代栄も半日手つだいしてきた。屋根まくりして、お昼後、やねこわし、夕方、かわら下ろし、女衆と年寄りはがす始末。飯、宿は渋谷様方。

三月八日 くもり風少し ⑪本

我、六時半に出て、元網がすほろいて張りかいて帰り、九時だったので、午前、妻手つだいにいき、我、袖も皆張り直して帰り、お昼後、妻と交代して、庵主様の家こわしに行き、全部終る。

三月九日 南西の風10m? 日暮より北西15m ⑨

鵜三郎方で山幸と三人で相談して、交代することに決し網上げる。我、元網取りかいる為きれいに洗つてはさにか
け、新袋出して元網作り、六等場に張りかいた。突風の為逃げて、スモウ見終つて又張りに行き、完了した。妻、庵
主様の地形砂入れ手つだい、喜代栄、感冒で医者。午後七時に電話で頼む。

三月十日 風波高し

我、大風波の為、川い出られないので休養。

三月十一日 風波次第に弱る ⑦

我、朝、六等場上げて濁川分に張る。砂取舟の穴でやつと張つた。広川母子と喜作さん来て、テレビスモウ見て、
母娘帰る。我、喜作さんと酒五合位いのむ。喜作さん帰つて（八時頃）後、ミイ狂い始め、灰をかぶつたり喰つたり、
水かぶつたり、風呂は入つたり。我等も、子供もほとんど眠らず監視し、六時過ぎ（妻が）起きてから、又、くるし
み出し、田村医者に連絡し、いろゝ手当てし乍ら一時間も待ち、すぐ注射したり、手当中、八時五分頃死亡した。
其後、父も弟妹達も全員来て、親類も相談して葬儀一般を決定した。けいひ段参万円

三月十四日 大風雨

三月十二日 雨時々雪 ③

今朝六時過ぎにミイがくるししみ出してすぐ医者に連絡。我と妻、子供等で手当てしているうちに医者来て、注射し
たり手当てしたがききめなく、八時五分に我に抱かれて息を引取つた。田村医者も手当し乍ら顔を見て、すぐち
ようしん器当て、心臓が止まつた事を皆に知らせた。その前に、医者と同時に、父が山ノ下宿りなので電話し、十時
頃皆来て、葬式の段取りを決定した。

三月十三日 風雨 ③

ミイの葬式で11時出棺。お骨は二時半頃帰り、又、本膳津に付いて皆大へんよつばらい、酒一斗近くのみ。千本せがきも上げて、宿り客多い為、喜代次さんと新津二人宿てもらう。

三月十四日 雨風

三十五日で段くずし。兄弟と村七軒招待して、酒五升位い飲む。(日中の分共) 弟達は夜帰り、喜代次さんとヨキ母子宿る。ヨキ等大淵の家あけたま、。

三月十五日 晴後くもり ⑤

我、まんじゅやとと花や等の代金計算して、いむらやに貳万参千円全額支拂した。其の際、貳百円ハタカ金香典にもらうた。喜代次さん夕方帰り、春好さんも帰り(社債二枚持つてくる)、喜作さん、夕食よばれて行く。喜代榮、津島やへ座ぶとん返しに行き、マンジユウ二十個やる。

三月十六日 晴

我、八時に起きて、食後、調べものして現金たしかめたり、其他。午後、本所場に行き、橋上流に張る。コーレンボが通るので、大事な所張られず。夜、彦造さん方い遊びに行く。

三月十七日 晴後くもり風も有り ④

我、午前、サシ網修理して、午後袋上げに行き、元網だけがすほろいて直し、袖網小一枚追加して、サシ網五把張つて帰り、テレビスモウ見てから、やつめ網の袋修理して夕食する。前日、貝津魚店(男)に金貳万円支拂つた。又、桑野店壹万〇七九〇円と伊藤店金貳千七七八円、支拂済み。今後は、田村医者と生花代だけ不明。其後、わかる。計壹万八千参百円。

三月十八日 北西の風波 二本

我、袋上げて、サシ網がすほろいて帰る。其後、元網の丈足した。竝に修理仕事。先日、十四日に要助婆（八五才）死亡。妻、洗たく仕事。

三月十九日 晴後くもり夕方小雨 ⑦

我、朝食後川い出て、網全部上げて12時半頃上がつて、お昼後、網仕事。春子さん、香典お明かし見舞（菓子）持つて来てくれて、夕食後、風呂はつて一服して帰る。妻、国道迄送つて行く。花や来て段こわして持つて行く。代金花共、計五万〇六百円支拂つた。

三月二十日 大風波寒し 休む

我、網の丈つぎ仕事。お昼後、清三さん方、彦造さん方へ状況ききに回る。其後、夕食迄網仕事。（忠吾さんの忠榮、病氣悪化して、親類皆病院に行く）ヨシエ、昨夜朝一時頃迄本家の小屋蔭で話していて、我と妻、心配の為寝られず。電話かける為、出て見つけ、叱つて連れ帰る。

三月二十一日 彼岸の中日くもり風波中

我、出水の為、網張つてないので網の修理。午後、彦造さんの網（三番）彦一さんと上げに行く。全部こわれていたが、網は大して切れなかつた様だ。帰つたら喜代司、喜三男、子供（3）来ていて、父と酒のむ。我も仕事止めて途中から仲間になり、酒とビール代り飲んで、又、彦造さん方いよばれて行く。酒のまず、コーヒー馳走になつて一眠りして帰る。山ノ下連中、十時頃帰つた。男四名、ミつと五人分、計壱万五千元を三万円の内より引いてくれて良いと言つていた。貸衣代二、二七五円は届けると言つていた。札状ハガキ出来てきた。100枚。

三月二十二日 大風波寒し

我、元網の丈足し仕事、竝に修理。忠吾さん方い夕方、見舞お明かし、香典二百円持つて行き、夕食中だったので、

酒一合位い馳走になつてきた。喜代栄、定時制高校受験に行く。

三月二十三日 晴時にくもり ⑤

我、網仕事。片袖完成して、午後、一等場に網張り。父が持つてきてくれたので、サシ網五把張つて来た。喜代栄、今日、中村石油会社に初出勤。妻、午前、君子の卒業式に出てお昼後、ねずみの団子くれに出た。ヨシエ会社―高校休み。

三月二十四日 くもり ⑦ 糸18

我、朝六時に出て、網見る。サシ網に鱒がか、つていると思つて気こんで行つたが不漁。やつめ7、糸魚18。

三月二十五日 風雨時々突風有り ③ 糸20

我、袋上げ、サシ網も四把上げて、竹ぬいて全部流して帰る。其後、網仕事。夕方三時より川い出て、網ゆすいで張り直す。西片方張り、東元網五本張つたら突風が来ても成らず、逃げる。

三月二十六日 大風波 ③ 糸27正

我、やつめ元網修理完成して、午後、水気の為、網上げに行く。砂にうまり氣してやつと上げた。お昼頃、喜代司来て、藤平の土地買入手つづきする為、農地委員会に行く。冷酒二杯飲んで行く。昨日、ノウジ畠29歩ミイが買ったのだが、登記しない為（本家、土地権利書見^{ミイ}いなくしたので）死亡したので、返してくれとの事で、父、行つて返す事を承知して来た。ミイ、買入坪7000円。この度の買入は手取り壱万円との事で、本家がどこい賣ろうと、二十九万円二人割にする約束なり。又、喜代司、男四人分香典貳万円置いて行く。参千円と決めたのを、後日、彼等相談の結果、五千円づゝにしたとの事。我はあくまで参千円でよいと言つたが、金が有つたら佛段^{あだ}金拾万円位いの物を買つてほしいとの事だったので受け取つた。

三月二十七日 風波有り小雪 休む

我、袋上げて帰る。其後堆肥切りかい仕事。夜、本家方で本興寺かん金25.0円出し。彦十郎さんから、ノウジ土地代金七万円（ミイが前拂いした分）受取る。

三月二十八日 くもり時々晴風アリ 休む

網、全部洗つて張り直した。其後、堆肥切りかい仕事した。喜三男方若い衆、自動車で食器棚二ツ重二對持つて来てくれ、妻と子供、一生懸命みがいていた。

三月二十九日 くもり時々晴

我、網上げてきれいに洗い直し、止めてほさにかけた。午後、我と妻、君子、政子で川端のたき物運搬。夕食、やつめ飯とやつめ煮魚、馳走した。庵主様に佛段^{ぼつだん}10万円注文した。

三月三十日 晴風寒し

喜代平の長男のおびや祝が明三十一日との事で、こちらから連絡して、赤飯六升米といた。我、午前、苗代に投げ込んで置いた。ハシカヌカを集めて堆肥に積んだ。お昼後、鈴木木工所い木引くのを頼みに行く。

三月三十一日 晴 喜三男に参万円返す。 タミさんに。

我、苗代片一方、10坪位い地ばん少し下げて土を畠へはね上げた。ならし打ちした。四時頃、苗代二はか打つて上がる。今晚、父と我、お産祝いに招待されて行く。赤飯五升五合、毛糸一、三〇〇円、砂糖一箱持つて行く。妻、裏の畠いカブと菜蒔き、其後、赤飯其他準備した。

四月一日 風雨の後晴風強し

父と我、昨夜午前一時すぎ迄、喜代平方で馳走になり、帰れずに宿る。今朝九時頃、朝食、一時頃お昼（うどん

一個づゝ、追馳走になつて、自動車で送つてもらう。大淵母子三人も同。今朝、みのる等三人に三百円小づかいくれて来た。妻、スズ消毒其他。休養。

四月二日 大風小雪寒し

我、夏のボラ漁の引き張り網の足形附け。妻、洗たく炊事。喜代栄、沼垂高校大形分校に初登校。

四月三日 大風チラゝ雪

我、午前九時過ぎに漁業組合長宅（津島や新次郎）い役員会に出る。得一さ、要松さんと我、三人出た。總會準備の役員会で赤字問題。40年度予算問題。組合、今後の非出資組合に入る問題等協議して、酒一升菓子千円位いして三時頃帰り休む。

四月四日 大風波小雪寒し

我、午前袖網作り。午後、同。夕方、ヨシエ、感冒の為熱を出し、三時頃、田村医者に往診してもらい、注射打ち、薬もらつて、夜十一時頃又苦しみ、医者に電話かけたが不在の為、後約して、ヨシエに病状話してきかせて寝る。其後、熱が冷めたのか眠つた。

四月五日 くもり寒し

我、袖網作り（丈足し）。妻、裏の道普請に出て夕方帰る。ヨシエの薬、本所い取りに行き、又、往請頼んで来た。夕方、田村さん往診してくれて注射して行く。心配ないと言ふ。彦造さん清酒一升持つてきてくれた。

四月六日 晴風寒し ①残2 今年初出勤

我等、Tビルのはりとスラブ、七時迄の残業で四時頃終る。受取。妻、家仕事。

ヨシエ病床。喜代栄、仕事並に高校。

四月七日 晴 ②²

我等13、14人で帝石橋付近の水槽ベース、柱、かべ等くむ。七時迄残業。帰りにホルモン焼きと酒おごつてもらつてのむ。我、先日、酒でこりたので、今日は酒一ぱいとホルモン焼きをトラフク喰つた。妻、午前、きみ子が入学式に出る。午後、苗代の田打ち。夕方、豚が子を産み、九時半現在一正生まれました。父、テツ夜でつきつきり。

四月八日 晴

昨日、夕方、豚の子14正生まれて8正元気。7正死んで生まれる。父、一夜附いていたので、我、仕事休んで、昼間、乳飲ませ役し乍ら袖網作り。三時頃、川に干した網落ちていた。袖一枚残して全部入れた。妻、農家割当てハイホン工事に行く（お昼携行）。ヨシエ、熱下がつたが食欲サツパリナシ、困つた。父、午前と午後、二回寝る。夕方一正^大が死亡。考いて見ると、八貫匁ほてに8正入れて、アンカ入れ、オーバーかぶせて悪かつたと思ふ。今晚、妻一時迄。其後、父、起きる。我、起きるつもりだつたが、父起きて、我を起こさなかつたとの事。

四月九日 くもり小雨少し

父旅行

我、袖作り完成して外の袖網修理した。夕食後に完了してまとめた。妻、父の東京旅行の支度やら豚の授乳やらで多忙。父、午後五時に出発した。よろこんで出かけた。我、夕食、ビール飲んだが半分しかのめなかつた。前半夜、朝五時20分迄、我、子豚の授乳。其後、妻。

四月十日 午前くもり後風みぞれ雪

午前、二人で苗代作り。水がなく、我、水入れ。お昼迄、妻、水道と仕切りあぜ作り。風雨強くなつて上がる。前半、二時半迄妻、其後我。朝迄、子豚の授乳。喜代栄会社、高校。父、東京。

四月十一日 大風時々雪大寒

今日は寒くて、皆、感冒ひかぬように休養した。妻、炊事。喜代栄、公休。ヨシエ感冒でたをれ、我、夕方、川端の木一本切つて割る。前半夜妻、午半我、子豚の授乳三日つづけたので、二人共寝不足で弱つた。

四月十二日 晴 苗代作り

我と妻、二人で苗代作り。平藤一さん、権四郎の苗代打つて来て、私の苗代もコーウンキで打つてくれた。二回廻つたのでぐにゃぐで仕上げ出来ず、準仕上げで上がる。父、三泊四日の東京見物より十一時頃帰る。父の状態を見るに、何か舌がもつれている様に思つたが、父は何ともないと言ふので、安心したもの少し不安。喜代栄、会社―高校。ヨシエたをれ。

四月十三日 午前くもり後風雨

我、感冒気の為田村医者い行き、診察してもらつて薬もらつて帰り、すぐ寝る。午後三時頃熱が出始め、四時頃39度6分有り。田村医者に電話して、五時頃注射してもらつて寝たが、一晩中39度さがらず。

四月十四日 雨

我、一日中寝ていた。熱も段々下がり、気分も良くなり、大事に休む。朝方ゆめ見て大声立てたとの事。父、近頃耳が遠く成つたので困る。

四月十五日 晴 スズまき 五月二十五日が40日目

我、今朝具合が良かったので、苗代の鳥除け網完成し、午後、本家の主婦頼んですじ蒔き完了した。我も具合良いので最後迄仕事した。ヨシエ、喜代栄、会社、高校。夜、彦造さん、漁協組の附加金集めて持つて来た。七七〇〇

円。今日、権四郎、保の助、我、善平、皆蒔いた。

四月十六日 晴

午前、妻と二人で苗代の風除け、骨ぐみした。午後、我、近善八さんの妻（八十才）病氣見舞に行き、喜三男方で宿る。妻、畠仕事（二度いも地ごしらい）。

四月十七日

我、今朝九時前に家に帰り、妻と苗代の風除け完了して、田端20畝、二度イモ植い完了した。君子、炊事。政子、風呂立て。おちいさんに進めて竹山病院い診察してもらいにやつた。最近急に元気がなくなつたので。

四月十八日 晴

我、午前、庄次の事で材木を新川い運搬してもらい、祝儀壱千円やつた。妻、休み。午後、二人で川原の油菜追肥（硫酸三貫匁、カリ一貫匁）全部二枚に施す。両ぐるめ完了して、夕方上がる。ヨシエ町い出て、八時現在未だ帰らず。父、何か元氣なさそう。心配。君子、珠算四級合格。政子不。君子、夕食炊事。

四月十九日 晴

今朝、九時迫に家庭裁判所へ伏字を連れて出頭し、悪友四人との事を調べられる。常に食生活、小遣い錢共に不自由もないのに何であんな事をしたのか？岩船屋時計店より二等当選、男用折りた、み式洋かさ受取り、沼垂支所より喜代栄の高校入学用コセキ小本一枚40円もらつて帰り、お昼後、新川鈴木木工所へ寄り、材木の寸法説明し、松ヶ崎かじやに行き、舟釘出来たかと取りに行つたがるすで、濁川で一服、四時半頃又行つて、親爺に会つたが未だ出来ていず、又、濁川い帰つて、夕食馳走になつて帰る。

四月二十日 風雨 ③

我、仕事に出るつもりだったが、風雨の為休み。漁業組合の第一期フ加金集める。酒網二、〇〇〇円、やつめ組一、五〇〇円、人頭割三〇〇円也。妻、お昼少し前、濁川い年始がてら行く。

四月二十一日　くもり後小雨④

我、鉄筋仕事に出る。水道の柱とかべ台直して、仮横筋付ける。五人で四時40分に終る。妻、台所仕事。伏宅、会社休む。足ねこじつた為、痛くて。どうも心が中途にいる様な男だ。

四月二十二日　晴

我、鉄筋仕事に行く。県庁前の下水スラブ五人で四時50分頃終る。大豊建設より酒三升もらつたが、影山、酒井、我、飲まずに帰る。夕方、バイク掃除した。妻、ミソ仕込み、仕事完了。喜代栄、会社休み高校行く。

四月二十三日　晴

我、鉄筋仕事に出る。小池―金次加工。敏坊―芳男、加工受け。我、ワイヤーのばし一日中。腕が疲れてシビレて直らず。夜、喜代平一家お祭りに来て宿る。酒、我と二人で八合位のむ。父も守を見てよろこんでいた。父、近頃めつきり耳遠くなり、元氣もなくなつた様に思ひ。毎日、竹山病院に通つてるので、内科に行つて診察してもらう様言つたが、医者が見なくとも元氣が良いから大丈夫だと言つたとの事。

四月二十四日　くもり

我、喜代平も休んだので休む。朝夕酒、お昼ビール3本、板あめ20枚、父、おごる。今日も一家宿つた。妻、炊事。

四月二十五日　晴　苗代除紙⑥

我、仕事に出る。水道の壁附、筋付け。二組外二組、柱のバンド巻き少し残る。夕方、七時前に秋男来て、喜代平

妻子を自動車でもかいに來た。みやげにトウ菜、玉菜やる。喜代司も來てもらつてゆく。父の病状ぐんぐんわるくなる様な気がするので、田村さんに電話したが日曜でるすだつた。

四月二十六日 晴後くもり夕方小雨 ①

我、鉄筋仕事に出る。芳男と我と喜三男三人で加工仕事。今朝、切断キ新自動車につんで來た為、後方ボディへこみ、まどがらす割る。修理代壹万壹千円との事。父、竹山病院に行く。妻、附添つて行き、病状を説明し、内科医にも診てもらい、動みやく硬化症とわかり、泌尿器科の薬止めて内科の薬もらつてきた。施りようも全部変更した為、今夕具合良く、嬉しかった。

四月二十七日 晴 ②

我、鉄筋仕事に出る。喜三男、芳男、我、三人で自宅横で加工切断。外の者は方々へ行き、皆、一時間残業して帰る。妻、午前洗たく。午後、姉、子豆植い、其他、農作業。ヨシエと喜代栄、会社―高校。

四月二十八日 くもり後晴

我、鉄筋仕事に出る。県信用組合の増ちくベース竝に柱五本立て、六時半頃上がる。仕出し14人分にして來た。妻、町い人參、里いも等買いに行く。父、具合良いらしい。

四月二十九日 くもり小雨

我、今朝七時頃庵主様と二人で佛段^庵店^庵行き、佛段^庵50代様一個拾貳万円注文して鐘と棒代金五千円弱だけ支拂つて來た。佛段^庵の代金半分位近いうちに持つて行くつもり。今日、ミイの49日で、弟、妹達一家を招いて納骨した。庵主様に壹千円。お膳14人前七千円。外に村の店やよりの買ひ物？

町より買ひ物、竹の子、里いも、レンコン等。

×四月三十日 くもり後晴 やひこ参り

我、喜三男方の春の旅行にやひこ参りに行く、計20人。不参加、浜倉、淀木、平、高橋、岩崎、計五名。清水やで酒飲む。新潟駅よりステーション迄歩き、バスで帰る。喜三男からもらったユベシ二本皆で分けて喰う。父、49日につかれて医者休む。今日帰りの汽車で壹千円喜代平に貸す（政に渡した様だった）。

×五月一日 くもり晴 庵主材木運搬

我、午前、鈴木材木店―松ヶ崎角助、かじや、寺山バイク屋と行つて、用足して、お昼後、庵主様の材木運搬に出た。夕方、酒肴出る。妻、竹山病院に行き、爺さんのちりようを本所でする様頼んで来た。竹山病院と連絡とつてやる様願つて来た。夜、我、豚の下糞上げて掃除した。

五月二日 晴 ④一、

我、鉄筋仕事に出る。豊照小学校2階のはりくみ、鉄の組四名来た。ハリとバラベツト完。妻、畠仕事。

五月三日 雨 ⑤二、

我、鉄筋仕事に出る。豊照小学校スラブくみ、夕方、ワイヤー切り、其後、鉄筋整利^{（理）}。帰りに朝せん人会館の差筋手傳う。妻、庵主様い棟上げ手つだいに行く。会ヒ一、〇〇〇円出し。今朝、舟大工来て、釘を山木戸のかじやに注文してくれと言つて帰る。残業の為、用足し出来なかつた。

五月四日 くもり ⑥

我、鉄筋仕事に出る。豊照小のスラブ完成。材料整利^{（理）}竝に切断加工。妻、休養、外、炊事。父、病状同じ。ヨキ、父と話して行く。夜、妻、婦人学級に出る。ヨシエ、喜代栄、会社、高校。

五月五日 晴 ×

我、朝、仕事に出たが、喜代平に仕事無いから四、五日農業をやつて休んで下さいと言われ、帰りに喜代次さん方
 い寄り、春正かじやに舟釘二百十本注文して、芳秋の家に立寄りミつの家も見えて来た（芳秋の妻からニラ種もらつて
 きた）。山木戸でお昼馳走になり、三時前に帰つて、苗代に水入れて（高い所、しもに焼けて赤く葉枯れる）ニラ種、
 家の前に半うね蒔いた。

五月六日 くもり ×

我、指痛くてあぜぬりも成らず、休養する。ヨシエ—喜代栄、会社。妻、畠仕事。お昼前、父をりやか—にのせて、
 田村医者道ちりように行つてきた。

五月七日 晴 ×

我、ゆび痛くて休む。妻、畠仕事、竝に炊事。ヨシエ、喜代栄、会社休む。高校一シヨに行く。

五月八日 晴 ×

我、休み。午後、苗代追肥（硫酸八百匁位）を全部に追肥して、水タツブリ入れて五時に終る。ヨシエ、喜代栄、
 会社。父、三日前頃より足もしつかりし元気な顔になつて家の前の草取り、はさ場の草取りとじつとしていない様に
 元気になった。このまゝ、元の元気になる事を祈る。妻、午前、洗たく仕事。お昼後、休んで夕食炊事。

五月九日 晴暑サ二十六度餘 ×

我、今日一日がまんして休む。お茶や竝に新津一家来て砂運び。喜代栄も手つだつた。今日、父に補ちよう器を買
いに行つたが、新品がないので三年前頃の品を貸してくれて父に付けさせたら、聞こえろと言つていた。夕方、助門
 の舟借りる為、郷中さがしたが見当らなかつた。

五月十日 晴 ×

我、爺ちゃんの補ちよう器取りかいて、新品一金壹万貳千円買い、市役所い老令^お年金請求に行き、本所郵便局大形連絡所等かけ廻つてやつと手つづき完了。妻、田のあぜぬり。

五月十一日晴 ×

十五万下ろす

我、午前、爺さんの薬もらいに行き、タバコの事、大便の事等相談して帰り十時より田のあぜぬりに行く。妻、表道砂利しき、午後、二人であぜぬり。喜代次さん、春芳さん来て、三時頃迄相手して、其後行く。今日、ミイの社債十五万円下ろす。佛段^{ふつ}拾貳万円、経づくい八千円、鐘四千七百円、計拾三万二千七百円入用の為。

五月十二日晴 × 舟釘

我と妻、田のあぜぬり。午後一時に完了して上がる。お昼後、山木戸（春正かじや）い舟釘受取りに行き、代金參千七百円支拂済。竝に、鈴木木工所い製材さいそくして帰り、喜作さんも来て三人でスモウ見る。妻も休む。妻に生活ヒ壹万円渡す。小豚^{こぶた}の去性^{けいせ}二疋。夕方、要松さん。

五月十三日 晴 ×

我、朝食前二五エ門方より舟借りて、妻と二人で堆肥、三舟沖上二反つづきに運び、ハシカぬか一舟つんで、苗代に水入れて上がる。午後、広川さん母娘来て宿る。夜、妻、生花会に出て九時に帰る。お爺さん、近頃病氣快方に向。

五月十四日 くもり × 田の堆肥入れ

我、朝仕事に堆肥。舟三堀い廻し、食後、妻と二人で田三反歩に堆肥入れ、石灰、反当二十貫匁施す。七時頃迄か、つた。喜代司来て、爺さんの相手してくれて、八時半に帰つて行く。今夕、庵主様に六万円也。佛段^{ふつ}の手金あつらいてやつた。喜代司に渡してもらつた。

五月十五日 晴 大淵一家宿る × 11日休む

我、大淵が田打ちに来てくれて上三反終わり、三時半頃から四時に下田に行つたが鉄輪のボート落として仕事出来ず、五時に上がる。妻、午前、豚の飼煮たり、畠仕事。午後、田のぐるり打ち起こす。夜、喜代平酒一升とビール六本、寿司二箱持つてきて、父と話して帰る。

五月十六日 くもり雷雨 ×

我と大淵、午前中、下の田打ち。コーウンキ、いんじんかからず一時間半もかかつてやつとか、り、一反でお昼迄。午後、舟や板の始末からいろゝ、竝に、スモウテレビ見る。ミツ夫婦一家と喜作さん来て、夕方帰る。ヨキ、田打ち完了したので夕方帰る。

五月十七日 くもり風

我、午前、苗代の風除けこわし始めたり、第二回苗代予防した。妻、お爺さんをりやかーで田村医者迄連れて行き、其後一服、お昼後、二人で沖の田三反歩、田ならし、水かけして水充分入れた。我、山幸方い夜遊びに行き、サシ網ロープ半玉とアバ40注文。

五月十八日 くもり少し晴 × かりんサン施工

午前、我、苗代の風除けこわして材料かたづけた。妻、居裏畠にキュウリ（二）、茄子（二）、定植した。午後、我、田肥まき、過リンさん一袋づ、まいて四時に帰り、テレビ見て、夕方、桶の修り、かたね桶一方くみ出し、一ヶ完。夜、津島やの芳春、かんづめ持つてきて見舞に来てくれた。我、お昼後、農協へ金七万円貯金し、肥料入りポリ買つて来た。

五月十九日 晴

我、朝食前より桶修理。喜三男夫婦、見舞に来てくれて相手し、夕方、少し仕事した。喜三男等は九時前に帰り、濁川兄来て、二時間も遊んで行く。妻、畠い苗物出し、竝に、炊事。苗代水落とす。

五月二十日 晴暑さ高し

我、午前、桶仕事。妻、田の手あぜ作り、其他。舟大工、漆二百匁二千三百円現金やる。午後二人で上ノ田高低直し、三時半頃より桶修理ほゞ完了した。近頃、爺ちゃん腹すかせて、我等上がりおそいとぶんぶんおこつてこまる。ヨキ、連絡がてら基肥の施肥、設計書いてもらいに来てすぐ帰る。

五月二十一日 くもり風強し 基肥施す

午前、二人で田の基肥配合して、反別に袋につめていると、濁川の義母見舞いに来てくれて、皆上がつて話した。午後、我等二人で上二反、其後、妻上がり、我、はさ田一反施肥して上がる。午後、大黒やみになつてきて少し出るのを待つたが、雨降らぬので、下田一反歩施肥し上がる。

五月二十二日 くもり晴風夕方止む

大淵、食前に来てくれて、二人で下田からこしらい始め、全部終つて四時頃上がる。夕食早く喰つて（父と我と大淵）風呂は入つて大淵帰る。一傳、むかいに来た。妻、午前、田の角ならし、其他。午後、本家い苗取りの仲間に行く。お爺さんの病状、体も足も丈夫になつたが、又、口も大部良くなる。しかし、目が少し見にくく成つたと言つていたので、明日診察に行つて、良くそれを話して相談するつもりだつたが、急に今晩行つて、薬をもらつてきた。爺さんの病気はすみやかに快方に向かつた為、今迄わからなかつた目が「ちらゝ」するのがわかるようになったのだ、事だそう。

五月二十三日 くもり

大淵 初

我、朝八時頃、大測い田ごしらいの手つだいに行く。二人で下田、小屋場、塚下、計四反三セ仕上げて、七時半頃上がる。妻、初にしき苗取り。我、10時頃帰つて来た。

五月二十四日 晴 サツキ始め

我と妻、二人で上の田一反歩、今日、完成。朝、二人共苗取り。夕方、又、苗100把位い取る。

五月二十五日 晴

我、朝苗取り。妻、炊事。食後二人で上の田、越路早生植いていると、10時すぎ、大測と岩姉さ二人来てくれて、四反歩さつき完了し、苗代も代かき完。今晚、サナブリで赤飯、酒、サイダー、ジュース等馳走した。午後九時に帰る。お昼後、秋田正雄、宅地買受書を取りに来たので渡した。⑤

五月二十六日 くもり夜小雨 サナブリ

我等、四時半に起きて苗取り。食後、ヨキと三人で出て苗取り。岩姉、九時頃やつと来た。竹の子を大工にやる為、おそくなつたと言つていた。午後、苗代代かき完。下田さつき完。苗代残して完了した。

五月二十七日 雨

我、午前、濁川いサツキの打合わせに行き、大測い行つてもらう様頼んで来た。お昼馳走に成る。直ぐ帰つて来て苗代サツキするつもりだったが、政二郎爺さん見舞に来てくれて、三時迄話、其後二人で苗代サツキ終わり。濁川兄、工場から来てサツキの話、又、して帰る。喜代栄、具合悪くて会社、高校休む。

五月二十八日 くもり 田ごしらい 大測

我、八時前に出て大測い行く。濁田と餅田、施肥して田ごしらいした。コーウンキ故障で、夕方、やつと完了し

た。岩姉、苗代のひい取り。我もひい取り少し、七時に上がる。夕食後、風呂もは入らず急いで帰る。父が待つてい
るので、妻、田廻り、外、洗たく。爺さんを医者い連れて行つて来た。

五月二十九日 雨夕方少し晴 苗取

我、朝食後大淵い行く。八時20分着。三人でヒイ取り苗とり、田廻り、水の有無、苗、越路早生を九三〇把取つて
上がる。清太さん妻、炊事に來てくれて、夕方、又、帰つて行く。ヨシノさんの長男、來て宿る。妻、田廻り、竝に、
父の肌着ぬい方、完。今晚、ヨシエ、社債70万分利子、6ヶ月三七、八〇〇円受取る。

五月三十日 晴 さつき 大淵4

我、濁川夫婦を待つていて、八時頃迄に大淵い到着。すぐ、我、ワク押し。小屋ば、水有つて大変めちやくちや、
外は良好。來年は水落としてやるべきだ。人数、ヨキ、我、喜代司、四喜男、ミツ、五人。ヨシノ、岩姉、松ヶ崎
姉、三人、喜三男代理女と濁川二人、計三人、合計十一人で六反歩、新通の二反迄植いた。帰り10時。妻、午前、
ナス畠地ごしらい田廻り。午後、二度いも手入。

五月三十一日 くもり大淵さつき

我、大淵いサツキに行く。喜代司、ヨシノ、松ヶ崎、岩姉、ヨキ、我、六人で苗代残してサツキ完了し、喜代司と
我帰り、女衆二人残る。明日は四人で苗代完の予定。妻、田村医者い爺の病状話し、薬もらつて来た。午後、茄子出
し、助門方より苗購入。ヨキに一万円づ、二回、貳万円貸す。大淵金

六月一日 くもり後晴 濁川サツキ

我、濁川へサツキに行く。午後、妻も來て、五時すぎに苗代残して完了し、上がる。庄造婆さんと五人で妻、早食
して帰り、我、九時半に帰る。喜代次さん來ていて、爺さんと色々話していた。材木出來てきた。喜代次さん帰るの

をやでも止めて宿らせ、自分も安心して寝る。夜、小猫さがして二回も起きてさがす。

六月二日 くもり晴

父死亡

午前四時に妻起きて、炊事前にお爺さんの具合見に行き（毎朝行く）返事もせず、ゆさぶつても應答無く、驚いて我を起す。喜代次さんも子供も起きて大さわぎし、我、バイクで医者むかいに行き、四時十分に来て、診察の結果、脳溢血で死亡と診断し、四時二十五分死亡となる。其後、村親るい集まつてもらい、寺―村―他村と告人や買物定め、後、皆集まつて段、其他、葬式準備開始。夜、念佛50人位に来てくれた。父の弟三人、子供、ミツの外全員宿る。

六月三日 晴

喜代平帰つた外、全員（喜代司、喜三男、四喜男、ヨキ、計七人と政二郎、彦造さん、清五様）来てもらつて、いろゝ準備する。夜、念佛。前日と同じく五十人も来てくれて嬉しかった。夜十二時頃寝た。

六月四日 雨

今朝、皆、六時頃起きて朝食し、葬式の支度した。寺むかい、政二郎さんのせて秋田さん行つて来る。午前十時すぎお経始まり、十一時前出棺、十二時頃、残留組残して帰る。三十五日のお経終つて、二時頃お膳に附く。選手は二はん台、最後迄。喜作、由松等、神谷内組、お寺組。津島や妻等、自動車で送る。山ノ下組二回に帰る。

六月五日 晴

午前、喜三男、喜代司達、やさしい買い物がてら町い行く。午後、皆で初七日の炊事準備。午後五時過ぎより膳に付き、飲み始め、十時過ぎ迄のむ。八升ものんで止む。お客は子供全部（喜代平、ミツ不参）と喜代次さん、喜作さんと村七軒、合計十四名。宿りは弟、妹五人と喜代次さん、敬子の七人。

六月六日 くもり時に晴

朝食後、喜代次さん残して皆、帰り。午後三時頃、喜代次さんも帰り、家族ばかり残る。助門叔母来て、夕方帰る。夕方、我、家族全員に、お爺さんは各人の心の中に生きているのだから、かなしまずに、毎日話しかけて元気で仲良く暮らす様言い聞かせた。其後、テレビ見る。君子、勉強中。

六月七日 くもり小雨少し きもの代

午前、我等二人で田の失せ植い下田の52号。苗が短尺だったので、浅植いで大雨水でういてぬけ、二時間もか、つた。其後、上の田、初にしきと越路早生うせうい完了して一時にお昼。其後、妻、二度いも両くるめ。我、たき物こなし、今朝、貸衣しよう屋主婦来て、代金九、二七〇円支拂つてやる。ヨシエ、喜代栄、会社、高校。田、青々と色出す。

六月八日 晴

午前、我、桶仕事。小屋片付けて、金物と材料整理した。午後、たき物こなし、夕方完了して、朝、月三うねこいで、カボチャ仮くるめした。長いもとネギに小便二方くれて上がる。君子、旅行の為休んで、妻と二人で洗たく物仕事。三時頃迄かゝる。其後、畠仕事していた。二人会社―高校、二人珠算。炊事、妻。

六月九日 晴

午前、我、倉の豚の飼料整理して、権四郎竝に政二郎さんに、千円―千二百円でふすまと米ぬか賣る。約半金。倉をきれいに掃除して、豚小屋掃除して、お昼後、喜三男来て、五時過ぎに帰る。互助会、段崩しに來た。

六月十日 晴

午前、我、礼状書き。妻、台所仕事の後、寝休み。午後、我、郵便局へ礼状出し、田廻りし、水入れて、長いもの手して、舟板、喜代栄と運こぶ。妻、西か、茄子、トマト、手入。今晚、我のタン生日で、喜代栄、君子でビールお

ごつてくれた。我、ビールの為か？食よくが出てきた様に思ふ。

六月十一日 晴時々くもり

午前、早生田二反歩、除草キ押し終つて、一時頃上がる。お昼後、我、早生田二反歩バムコン散いて、五十二号、一反歩二人で押す。妻、炊事に上がり、我、苗代失せ植いして、下田水の見廻りして上がる。喜代栄、友達がむかいに来て、又、高校に行く。昨夕、孝松さん、我の二ヶ月分、計12日分の日当一万五千円持つて来てくれた。

六月十二日 晴 除草キ完

午前、二人で下の田一反歩と苗代除草キ押し、(横)上の52号一反歩、バムコン散いて、お昼後、休養。妻、寝休み。我、政二郎方で一服し、前の道に出ている木の枝切り。其後、香典の札状書いて、午後四時になる。其後、裏のたき物小屋、屋根修理して、夕方、苗代、バムコン散いた。妻、感冒氣の為、寝休み。ヨシエ、会社、山ノ下。喜代栄、会社一町ヘスモウ。

六月十三日 くもり

我、六時半に出て大淵い行く、除草キ持つて。大淵で朝食して一服していると、喜代司と喜三男来て、喜三男帰り、若い衆二人連れて三人で九時過ぎに来て、六人で小屋場田の草、手でとる。お昼後、四喜男も来て、新通り、四喜男と若い衆二人で除草キ押し、外、五人で下田塚下等手でとり、夕方、新通り約四分の一手で取つて上がり、直ぐ下水道工事して、八時頃上がつて夕食した。妻、感冒で倒れ。

六月十四日 くもり小雨少し 船大工始め

舟大工、今日から来て、敷板形取る。彦造さん、休次さん、遊びに来た。我、下田一反歩、バムコン散いて、道端と小堀掃除して、其後、大工の手つだい。妻、炊事。豆の定植少し。

(欄外に坂東弁護士の「椿、34年1月、すでに水俣病とわかっていて」との後書きあり―平野)

六月十五日 晴 2

舟大工さん来る。我、彦造さん頼んで、二人で、舟大工の指示で小屋かけ作業。やねは、清三さん方よりビニール幕一枚と、我家の天幕でふく。夕方、早じまいで小屋ののみます作るところ整利して上がる。今日、午前十一時30分頃、厚生省くわんきよう衛生局食品衛生課長外30人も来て、テレビかめらを二台据付けて、約二十分間、病状、情況、いろいろ聞いて行く。夕食後、新聞記者とかめらまん来て、酒一升とおみやげ持つて、情況聞いて録音して行く。喜作さん、テレビ見て、私が調査団と話している。驚いて来てくれ、酒2合位いのんで帰る。今回の病氣は、水銀中毒と断定。父も同病なり。

六月十六日 晴 3

舟大工さん、敷ぬい仕事。我、農作業小屋片付け方。昨日、新大神経外科医さん来て、我と彦造さんを診察してくれて、髪の毛若干つつ持ち帰つて分せきすると言った。水俣病がめづらしいのとおそろしいので、各報道者が入りかわり立かわり来て、テレビかめら、テーブルコーダー等でいろいろ聞かれ、私も仕事をするひまもなく、ノイローゼとなる。

六月十七日 くもり夕方より雷雨

舟大工来て、敷板完成。オッタテ作り、我、小や片付け完了し、夕方、作物にフミロン予防した。お昼後、部落会長方へ組長集まり(我も行く)、新大医と東保健所で三者会談した。今日は、私も特にうでが痛く手先がしびれて氣

持ち悪く、頭痛かつた。

六月十八日 晴

今朝、組長がふれて、つゆ気祝だと言ふ（昨夜の雷雨で）。舟大工、子供が来るので休むと言っていたが、本当に休んだ。我、今朝、うで痛まらずびれも半分もなく、快方に向かつて嬉しい。六月十九日から別の帳面に移り、四十年12月6日より、又、この帳面に戻る。大学医学部脳神経外科入院した為。

べつな帳面に移る

「日記帳（米供代金控） 近喜代一 自昭和40年6月19日 至昭和40年12月5日 市内一日市」

昭和四十年六月十九日

新潟日報社へ日記帳貸したのでこれに書いた。（川魚の状況、父の病状、農薬等調査の為）

六月十九日 晴くもり 舟大工 ○

我、忠吾さんと毒水の流れた月日や調査分せき、ケイ路、月日等調べる為、日報の記者と津島やの組合長宅に行つたが、川網引きに行きルスで帰り、其後、日記帳を日報社に貸してやる。其後、我、材木整理^{（舟）}。舟大工来て、オツ立て作り。夕方、由二郎さん来て、元氣付けてくれて帰る。

（この頁の上段欄外に「誠光教会 新潟市白山浦一丁目402—電話（番号、略）のメモ書きあり—平野」

六月二十日 雨 ○

舟大工、午前、仕事して、午後、雨の為休んで帰る。喜代司とヨキ来て、ミイの百ヶ日法要（庵主様）と我で法要した。二人共、夕食後帰る。喜代栄、昨日出発、今夕帰る。会社旅行。日報社、夕方来て又日記借りて行く。計三冊。今日の日報に我の日記出ていた。川魚と父の病状等。

六月二十一日 雨 X

今日は、喜代次さん、喜作さん、新潟放送、東京放送等来て、一日中お茶出して話していた。眠むかつたが寝るひまなし。夕食後、保健所の女の人が来て、私に、明日午前十時半頃迄に医大のう内科に入院して下さい。但し、室は外科しかあいていないので、そこ行つてくれと連絡あり。妻、すぐ入院準備し、我、民生委員と喜三男方の自動車連絡した。夜、彦造さん親子、政二郎と善作主人、本家主人来てくれて、いろゝ話して帰る。

六月二十二日 晴 凡れい ○血液 ◎セキズイ液 ◎脳波

喜三男（秋男運轉手）来てくれて、濁川義父と彦造さん来てくれて、皆準備して、九時50分頃家を出て、大学医学部神経外科病室308号に入る。手つづき中、彦造さんも同じく来る予定だと言われ、喜三男、自動車でむかいに行き、あわて、入院。三人同室に入る。今日は、耳より血液を取り検査、及び、手足、目平均等検査し、夕食し、三人共同室をよろこび合つて九時消灯。我、11時頃眠つたらしい。

六月二十三日 晴 ○○○

三人共朝食待つた、で、うでより血液30cc以上取る。四郎君だけ薬を注射し、又少し取る。朝食後、私と彦造さんはセキズイ液を取り、其後、脳波検査で頭に注射針17本もつきさ、れて、15分以上電図とる。外に四郎君と我は心電図も取る。午前中、三人共眼科で検査。最後にヒトミをひろげて検査したので見にくくなり、三人共やつと帰つた。我、其後、首と後頭部痛くて医者に言つたところ、セキズイ液を多く取つた為で、静かに寝ていれば直ると言わ

れたが、朝になつても同じく痛くて弱つた。

六月二十四日 晴 ○

今朝も朝食待つたで、八時30分頃注射し、九時15分頃血液取る。其後、食事して耳の検査。半分終つてお昼。後、すぐ又行き、一時半頃終つて帰る。四郎君、午後、セキズイ液を取り、一時間た、ぬ内に脳波検査して帰つて来（た）が、私の様に首や頭の痛みは無い様だ。今朝、私、主治医が血液検査の為の注射した直後、小便したのが空色に変わり、驚ろいて医者に正すと、注射の為だから心配ないと言つた。昨夜、忠吾さん、七郎君連れて来て、漁業の事について話してくれた。我等、手紙をあつらいてやる。今日、午後、喜三男来て、保証人の印と給料表書いて行つてくれた。其の直後、清三さんも来て、玉子30ヶ三人に見舞つてくれていろゝ話して帰る。一服後、夕食してこれを書く。彦さん、新聞、四郎さん、ざつし見ているところなり。我、まだ一日中首と頭痛し、とこの中で休む事にする。トッセン、ヨシエと喜代栄が見舞に来てくれて卵（5）、みそ、つけ沢山、菓子沢山、色々。外にヨシエの友達から（カルピス二本八合4倍）をもらつて、皆でかるびす飲んだ。子供達、七時すぎに帰つて行く。

日照寺よりケーキ二本（一箱もらつた。三人で）

六月二十五日 くもり 注射—尿 船大工来る

五時頃起きて一服し、便所。洗面し、又朝食待つたで、注射八時頃して、後、15分後、30分後、1時間後、2時間後と四回取る事（小便）実行し、途中より目と耳の検査に行き、四郎さん、彦造さん完了したが、我、途中で貧血液取られ悲めい上げて居た。大変身体の弱る神経（首、後頭）の痛さが残るいやな検査なり。又取るなど言つたら、私はことわるつもりである。なぜなら、三日たつても痛くて（つーんと脳にひびき時々くらくする）。四時頃、喜代

次さん見舞に来てくれて、一時間位い居て、果汁ビン四合入二本持つて来てくれて帰る。忠吾さん、夕方来て、鍋、玉ねぎ五、玉子10持つて来てくれて帰る。夜九時頃、四喜男一家見舞に来てくれて、雪国あられ大箱持つて、トランジスターラジオ貸して行つた。今晩は、私は首すじ痛く、彦造さんは手足のびりり、四郎さんはなしで、九時に消燈。今夕、又一人、室に増員して来た。患者（女中学三年）母付そいがは入つて来た。

六月二十六日 晴 一晚中雨なり

今朝は、四郎さん食事待つたで、血液と小便検査。我と彦造さん、検査無し。十時30分、植木教授の回診あり。我等3人共、水銀中毒の症状見られぬとの事で嬉しかつた。お昼後、妻と彦造さんの妻、見舞に来てきうり、塩玉子等持つて来てくれた。そこい政美、春美二人見舞に来てくれてあめ玉、菓子等もらう。六時過ぎに二人で来てくれ、ヨシエ、友達（入院）の見舞に行き、七時半頃になつても来ないので、喜代栄、四郎さんに案内してもらつてむかいに行く。我、七時頃ちりよう室い行き、理由を言つて水まくら借りてした。気持ちが良い感じ、すーつとする。今日、東京（より）^{脱カ}週刊朝日届く。永井萌二さん記者より。

六月二十七日 晴

今日は日曜の為、何の検査もなくのんびり。しかし、面会者（見舞）田沢正作さん、忠吾さん、七郎さん、蔵さん、来てくれていろゝさわぐ。三人にお昼出す。三百円。我、水まくらしてから気分良く、このまゝ直りたいと思ふ。お昼後、六吉さん、トクミさん、見舞に来てくれ、玉子25づ、菓子一包御見舞もらう。正作さんよりカルピス四合入一本御見舞。庄之助さん来て行く。夜来の雨もからりと晴れて上天気なり。あたゝかし。我、まだ首全体が痛い、昨日より半減。水枕している為か？気分も良い様に思ふ。夕方、ヨシエ来て、又、友達の見舞に行き、七時頃帰つた。砂糖など持ち帰らせた。秋田正男さん、バナナ約一貫匁弱、見舞に来る。

六月二十八日 晴くもりむし暑し

我、今日も全然検査なし。彦造さん、四郎さん、耳鼻の検査。12時50分、完了して帰る。皆で入浴してきた。後に検査に行く。十一時30分頃、作造さん、彦造さんの見舞に来て、お昼後、梅子と彦栄さん、妻、見舞に来て、三時半頃、皆帰る。同室の川崎君、母病気で帰郷す。同、南西さん（娘）、母付添退院。其後、我のトナリ彦造さん引越して、一日市者三人並らぶ。我、首と頭の痛いの大部快方にむかつて来た。又、明朝食待つたとの事。夕方、彦一さん来て、福し事ム所いの申告書、早く出す様に言われたので、我の分は書いてやり、ヨシエと喜代栄の分、書いて早く提出するように（林三郎さんに頼んで）妻に言ってくれと言付けてやつた。

六月二十九日 晴 ○◎

今朝は、私だけ食事待つたで、九時半頃血液取り、脳研と外計二ヶ所へ送ると言っていた。其後、朝食喰つて寝る。今日の内に又セキツイ液取ると言われがっかり、先日の様に又後頭部、首等痛んで食事も出来ない様になるのではないかと心配でもやるだけはやられるのだから、心配しても仕様がな。なる様になるだろう。義也さん見舞に来て、私にしず子五〇匁、彦造さんにタラの子百匁位持つて来てくれて、すぐ帰る。福祉事ム所の人来て、所得申告を早く出す様注意し、心配せずに施りようを受けて早く全快してくださいと言つて帰る。四時過ぎに妻と春子さん、春治さん三人で来て、見まつてくれた。濁川、バナナ一貫五百匁位、春子さん、たをる、寝巻き持つて来てくれた。三時すぎ、我、セキツイ液二回目取り、首と頭が痛くならぬ様に注射一、〇〇〇cc打つてもらい、気分良好。喜代司、夕方来て、夕食して帰る。八時頃、三人で鑑詰切つて喰つた。外に忠吾さん、貫一さん、ハギイさん夫婦来た。今晚は心配した痛さなく安心した。

六月三十日 くもり ○

今朝も、又、三人共食事待ったで、血液^{けつ}取る。其後、私だけ注射して尿四回、15分、30分、1時間、2時間を取^けり、十一時30分に終つて朝食し、30分後、又、お昼。皆喰つた。今日は見舞客〇。症状の事、家の事など語り合つて、夕食後、テレビ見に行く。ゴロンボ波止場の終わりに水また病の発表が出て、近喜代一方より出た川魚に水銀が35P、PM有つて、多量だと発表。父、喜代太さんは月始めに死亡、長男喜代一さんも重体ですと発表したので、驚ろき、面白くなかつた。すぐ室に帰つて寝たが12時頃迄寝れなかつた。坂内要松さん、見舞に来てくれて、菓子2百円位。

七月一日 くもり雷雨

今日は、彦造さんだけ尿検査で朝食ぬきとなる。私と四郎君は平常通り。其後、喜代司、肉持つて見舞に来た。近床屋さん主婦も見舞に来てくれた。昨夜七時頃、水俣病の発表が有り、私もみなまた病で重体ですと発表したので、皆、驚ろいて来てくれた。床屋さん見舞、森永コーラス一箱、本家主婦、かんづめ大二、小四、菓子一包、お昼後帰る。其後、藤左工門様主婦（婆）赤まむし酒六四〇ml、一ビン。桑野辰二郎母、見舞に来た。金貳百円現金包。直後、新潟放送記者来たので、昨夜のテレビニュースを直す様言つて、焼いた魚から35PPの水銀が出たことに付いて、私の気持ちをテープで話した。夕方、忠吾さん来られてきうり、卵持つて来て、すぐ帰る。喜代栄、君子、政子、面会に来て日暮れに帰る。

七月二日 晴

今朝、私だけ朝食待ったで、血液^{けつ}取る予定だつたが、九時すぎ中止になつて食事した。其後、交代した私の主治医が来られて、明日やるから其のつもりでと言つて行く。其後はくすりを與いると言つていられた。今朝、善造さんと由工門さん来て、かんづめ各一個^①大づ、もらう。其前、忠吾さん、清三さん妻、茂さん、稔さん、キヤんで一持つて来てくれていろゝ話の末、三人共自覚症状が心配で診察してもらいに来た。忠吾さん、案内して内科の方に行

く。我等三人十一時前に風呂は入りに行つて来た。お昼後、神谷内、向山、スキさん三人見舞に来られて、夏菓子各一箱代金400円位いつて来てくれ、午後二時頃帰られた。

七月三日 晴

我、朝食待つたで、九時半頃血液取り^採食事する。其後、院長廻診し、今日から薬飲ませて施りようすると先生は言つていた。我は未だ前頭部時々痛い。彦造さんはちくちくが益々ひどくなると言つていた。午後三時半頃、庄九郎のチイと庄造、庄左妻、彦さんの見舞に来て、四郎君がセキズイ液取り^採られて青く成つて帰つて来たのを見て、氣持が悪く成ると言つてすぐ帰つた。？チイは相変わらず庄九郎の娘に違いなし。私の主治医来て、明日からちりようする予定だったが、外の人がおくられているので明後日から始めますと言つて来た。

七月四日 晴

今日は日曜で何もなく、食事後、脳神経内科い同病の津島や、下山、江口、計四人の室い遊びに行つて十一時に帰り、浜野先生に手足腹等検診してもらつた。お昼後、喜代司妻、喜三男妻子、喜代平妻子、ヨキ妻子、見舞に来てくれて、かんづめ、果物、肉、タバコ、讀物等もらう。其後、清野キノさん外二人見舞に来てくれ、キノさんよりバナナ五―六百匁もらつた。其後、妻と君子、政子来て、正油一升と塩一袋、及びミソ持つて来て、洗たく物持つて帰る。後、彦栄、彦太、面会に来てすぐ帰る。夕食後、九時迄テレビ見た。たいこう記。風呂は入

七月五日 くもり

手当て始め 風呂は入る

今朝、彦造さん、四郎さん、血液取る^採為、食事待つた。九時朝食。我は普通。九時35分に、水銀中毒薬二個始めて飲む。朝昼夕、各二個、計一日六個のむ。三人同じ。夕食後、皆でテレビ、藤吉郎、見に行き、八時に帰る。我、まだ前後頭部、時々ズーンと痛み重い感じ。早く直る様心で祈る。彦造さん妻と彦政君来て、二時間位居て帰る。

七月六日 晴うすくもり

普通食後30分、ベニシラミン錠二個のむ。其後、皆讀書。昨夕、佐渡の人57才、入室（セキづいシユヨウ、前三回手術）。午後、喜代次さん見舞に来てくれて、五時頃帰る。家に行つたら舟大工に舟を完成してもらうよう頼んでやつた。忠吾さん来て夕方帰る。きうりと卵持つて来た。今日も、薬六錠のむ。昨夜、私も彦造さんも軽い腹痛の感じあり。くスリの副作用らしい。夕方、我、屋上へ行くつもりで少し急いだらなんだかセタゝするので、みやく見たら120も有つたのでそろゝ帰つて来て、寝た。薬の副作用か、労働不足の為になのか？

七月七日 くもり

今朝、我と彦造さん、二人で室掃除した。教授廻診の為、皆待機。廻診時、別に変つた事ないか—との事。つかれやすい事を話したら、遺傳？何とか言つていた。助教授だつた。我、まだ後頭痛し。我、インクとボールペン60円買つてきた。夕食、茄子、豆、ねぎ汁煮た（煮メになつた）。

七月八日 晴くもり

今朝、三人共何もなく、朝食した。同室の森さん、後頭部手術で310号室へ行き、310号室より長屋建治15才来た。森さんの兄弟其他六—七人、血液補充に来て待機していた。午後、妻、ねぎとろ、こんぶ、下着、しやつ等持つて来て、二時間位いで帰る。父の49日法要の仕出しと客の数、話す。田の仕事、打合せてやる。夕方、津島やの患者遊びに来て、いろゝ話す。